

看護実践能力と看護管理実践能力の育成方法のEcho Network

橋本 和子

高知大学医学部看護学科 〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮

Echo Network of Nursing Ability and Nursing Management Ability

Kazuko HASHIMOTO

Dept,of Nursing,Kochi Univ. Kohasu. Oko. Nankoku. City. Kochi
(783-8505) Japan

Abstract

A. Nursing ability

1. Ability to respect and protect humanity
2. Ability to develop nursing
3. Nursing ability toward people with health problems
4. Management ability and Leader Ship
5. Study/inquiry ability

B. Methods of developing nursing ability

- 1) Methods of supporting human relationships
- 2) Methods of developing creative nursing
- 3) Nursing service methods
- 4) Team systems and influences of liaisons/health medical welfare policies
- 5) Establishment of organizations/community care systems

C. Element of Nursing ability

- (1) Nursing ethics
- (2) Quality assurance of nursing practice
- (3) Safety service management
- (4) Roles of nursing
- (5) Career development

E. Method of developing Nursing Management ability

- 1).plan and devise
- 2) organization system
- 3) Motivation
- 4) Control
- 5) Change

D. Nursing Management ability

1. Ability of system
2. Ability of Management
3. Ability of Leadership
- 4.Ability of communication andHarmony
- 5..Education

F. Element of Nursing Management ability

- (1) Manpower , material , money , Information resources
- (2) Assurance and Guarantee of Quality of Care
- (3) Risk Management
- (4) Echics for Nursing
- (5) Assessment of Fuculty Development

Nursing ability and Nursing Management ability are developed through lectures/seminars/nursing practice only after the establishment of an Echo Network in which items in (A), (B), (C) (D), (E) ,(F) are interrelated

キーワード：大学教育。看護実践能力。看護管理実践能力

Key Words : Education in University. Nursing ability. Nursing Management ability

はじめに

平成16年3月[看護学教育の在り方に関する検討会報告]が出され、看護実践能力の育成に向けた大学卒業時の到達目標が示された。4年制の看護系大学学生の教育はいかにあるべきか、クライアントに安全で安心なケアの提供をするための知識、実践、態度等の能力育成が今一度問い直されている。「看護基礎教育は4年以上」最重点に「3免許は維持」議案を可決・承認の見出しで、大学学教育は大学教育で行うことが妥当」と平成18年度日本看護協会通常総会で提案され、永年の日本全体の看護教育制度改革の課題を解決する糸口を決定したことに、大いに期待するものである。本稿では、講義・演習・実習を含め、4年制大学の看護学部における看護実践能力育成方法のEcho Networkを作成し、それを基盤にして看護管理実践能力育成方法のEcho Networkの枠組みを考案した。

1. わが国の大学教育

1952年、高知県立高知女子大学家政学部衛生看護学科が設置され、翌1953年には、東京大学医学部衛生看護学科が開設（現在の健康科学部看護学科）された。その後、1964年に聖路加看護大学に、1975年には千葉大学に日本最初の看護学部が開設された。

平成18年4月、文部科学省によると、4年制看護系大学は国立42大学(看護42、保健42、助産36)、公立43大学(看護43、保健43、助産31)、私立59大学(看護59、保健59、助産25)であり、計144大学になったとの報告がなされた。大学院の設置もめざましく、国立大学の修士課程35、博士課程12、公立大学の修士課程29、博士課程17、私立大学の修士課程22、博士課程8であり計修士課程86、博士課程37にもなった。今後、全大学に修士・博士課程の設置をしていくのか、基礎教育4年で看護師課程、2年の修士で保健師や助産師を育成する形をとるのか、博士課程のありようとあわせて、今後の看護教育の改革の推進が望まれる。

さて、4年制看護系大学が多くなりつつある現在、将来の看護界の充実を図るためには、看護学教育の中で、1番の課題となっているのが、学生にどのような看護実践能力を育成するのか、その能力育成方法はいかにすべきかである。患者に対するセーフティー・サービスマネジメントをいかに育成するか、卒業時にどのレベルにして、学生を実践現場に送り出すか、各大学とも到達目標を決め、それに向けて努力しているところである。

2. 看護の役割と機能の拡大・発展

近年、看護実践の場が大きく拡大している。また、看護の役割と機能も[ケアの提供者、コミュニケーションする人、教師、クライアント、アドボケイト、カウンセラー、社会の変革者、リーダー、マネジャー、ケースマネジャー、リサーチャー、開業看護師、上級看護実践者、臨床看護スペシャリスト、麻酔看護師、上級助産師、看護研究者、看護管理者]等と拡大している。

3. 看護実践の基準

専門実践の基準では、1) 質の高い看護ができる 2) 実践の査定ができる 3) 継続した看護者の教育ができる 4) 専門職仲間との協働ができる 5) 倫理的看護実践ができる 6) 個人・家族や他の専門職と協働して看護の提供ができる 7) 研究に基づく看護実践ができる 8) 安全・安心を考慮した看護計画の立案と実施ができる 9) コストや経営を考慮した看護の提供ができる等があげられる。

激動する社会にあっては、ヘルスケアシステムも21世紀にふさわしい新しいシステムを開発する必要がある。病院のヘルスケア、地域のヘルスケア、自主グループが行うヘルスケアの組織運営と連帯組織が重要であるからこそ、看護専門職にリーダーシップとマネジメント能力が要求される。

人々を動機づけるニーズや目的性を理解し、エンパワーしあいながらより健康な社会を創造していくリーダーシップが必要である。また限界のある社会資源を最も有効に使い、最小の社会資源で最大の効果を上げられるよう、経営的な視点をもって役割を果たすようなマネジメント能力が必須である。今日の地域におけるヘルスケアサービスが拡大するなかでは、多様なヘルスケア専門職がチームで最も効果が上がるサービスを開発しなければならない。それには、異なる分野を調停、調整する専門職が必要である。看護は、常に患者又はクライアントの側において、ヘルスケアニーズについて、日常生活レベルで最も詳細に理解していることが求められる。

4. 看護実践能力育成方法の Echo Network

図1は橋本の考案した看護実践能力育成方法の Echo Network である。この図は、中から外へ、外から中へ、左から右へ、右から左へと連動・循環していく Echo Network である。

このような Echo Network により、講義・演習・実習が響きあう関係を作る。また、各段階で評価し不足している部分をおぎない次の段階へと進む循環型方法も関係する。Echo は働きかけたり、作用すると必ず返答があるという仕組みである。この方法により、看護実践能力が培われる。

看護実践能力の育成方法としては、以下の内容が重要である。

- 1) 人間尊重・擁護能力を育成するための教育では、人間を深く理解する教養の涵養、人間を尊重し、相手の立場で看護を実践する倫理観の育成、相手との信頼関係を築くことのできる援助的人間関係能力を育成する。
- 2) 看護の展開能力を育成するための教育では、個別性を踏まえた創造的看護の展開ができる知識や思考力を培い、看護実践の質の保証ができる人材を育成する。健康

をますます増進させるための援助や健康問題をもつ人々への看護実践能力は、患者の視点に立った安全・安心を考慮したセーフティ・サービスマネジメントを念頭に看護サービス方法及び看護技術習得方法を教育する。特に、看護技術の習得は臨床が求める技術内容や水準と剥離しないように、学内での効率的な教授方法を駆使して教育する必要がある。それには、「療養上の世話」と[診療の補助]の知識・技術が確実に習得できる方法を精選する。

- 3) マネジメント能力とリーダーシップ育成については、予防的視点や保健医療福祉サービス継続に向けた組織・地域ケア体制づくりの視点をしっかり育成する。看護の役割の認識やキャリアデベロップメントについての能力を育成する。それには、研鑽・探求能力を備えた人材の育成を図る必要がある。

5. 看護管理実践能力育成方法の Echo Network

図2は、橋本の考案した看護管理実践能力育成方法の Echo Network である。この図は、図1と同様に講義・演習・実習が響きあう関係を作ることである。上級学年になると、看護管理学を学び、修士課程では、看護教育・管理学分野の履修もある。実践現場に出て実践、教育、研究を統合して考えケアの質の保証と評価につとめなければならない。この図はいつの時期でも自分がこういった能力を身に着ける必要性を感じたときに役立つものである。アメリカ看護師協会の専門職業業務遂行基準は、ケアの質と評価、業務遂行能力評価、教育、研究、倫理、協働、相互協力的同僚関係、資源利用等とあげている。

看護管理実践能力育成方法としては、以下の内容が重要である。

- 1) システム能力を育成するための教育では、種々な特質をもっている要素を合目的により人間らしく効率よく業務を遂行できるようにするためにマッチング（結合）させて、全体的に有効に働かうよう調整・組織することがシステム化である。各要素がいくら優れていても、各要素間がうまくマッチングしないとシステムとはいわない。管理する者の意思は明確であり、要点をついたものでなければならない。そうしないとコントロールは乱れ、システム化は困難になる。システムとは、個々の要素(人・者)を合目的に整合して統合させた全体である。組織は人なりという。そこで働く看護職が組織の目的に向かって成果を上げるとき、それは、システムといえる。そのことを学生時代から教育する必要がある。
- 2) マネジメント能力の育成をするための教育では、ケアの質の評価やリスクマネジメント、関係法案や規則との関係、看護倫理を重視し、看護師の行う決定と行動はどうあるべきかを教育する必要がある。
- 3) リーダーシップとコミュニケーション能力を育成するための教育では、リーダーと部下が気持ちよく協働・調和して業務の遂行ができることがなにより大切である。

組織や集団には、目的目標があり、それを達成するためには、リーダーが必要であり集団としての力学が存在する。上司と部下の関係、同僚同士、集団対集団の関係、といったようにそこには多くの関係があり、その媒体としてのコミュニケーションとハーモニーが存在する。リーダーの集団におけるメンバーとの関係やコミュニケーション能力、ハーモニー能力、コーティング能力が集団の士気や力の高低を左右する。

- 4) 教育・研究能力を育成するための教育では、看護実践における最新の知識の獲得、技能を維持するための経験、実践環境にふさわしい研究の実証をしていく必要がある。自己の成長と能力開発に必要な教育に参加、研究活動の他者との共同、研究結果の活用を常に考え、実践・教育・研究を統合させた行動をとり、看護の専門性の発展に貢献しなければならない。

エレメント(要素)としては、(1)人的資源・物的資源・財的資源・情動的資源、(2)ケアの質の評価、(3)リスクマネジメント、(4)倫理、(5)FD(ファカルティ・デベロップメント)のアセスメントが上げられる。これが1番内側の輪であり、次が1)計画・立案、2)組織化、3)動機づけ、4)調整、5)統制、6)変革等が(1)～(5)にEchoし、更に1番外枠の1～5にEchoする。左右に上下にEcho Networkを通して看護管理実践能力が培われる。

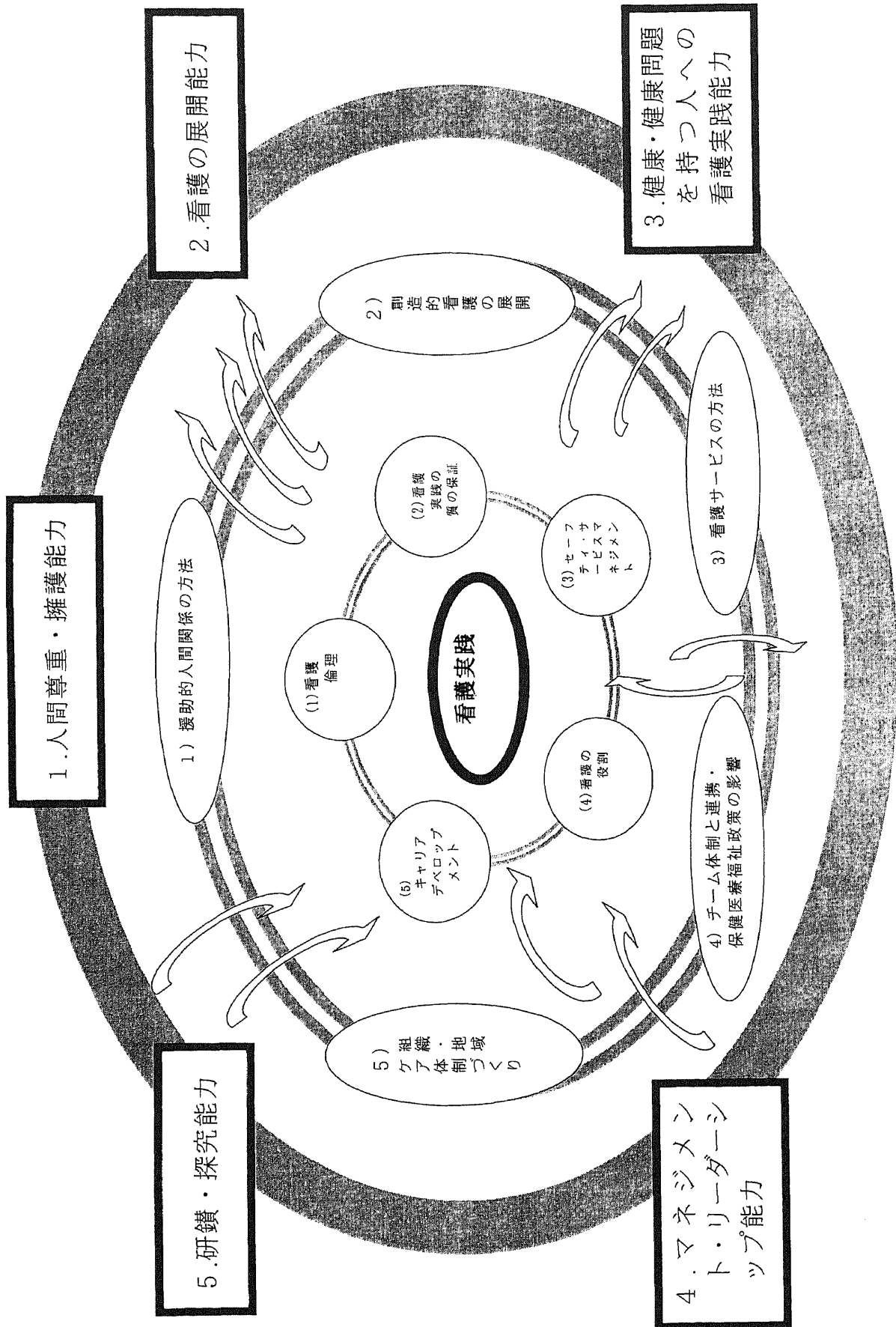


図1 橋本の看護実践能力育成方法の Echo Network

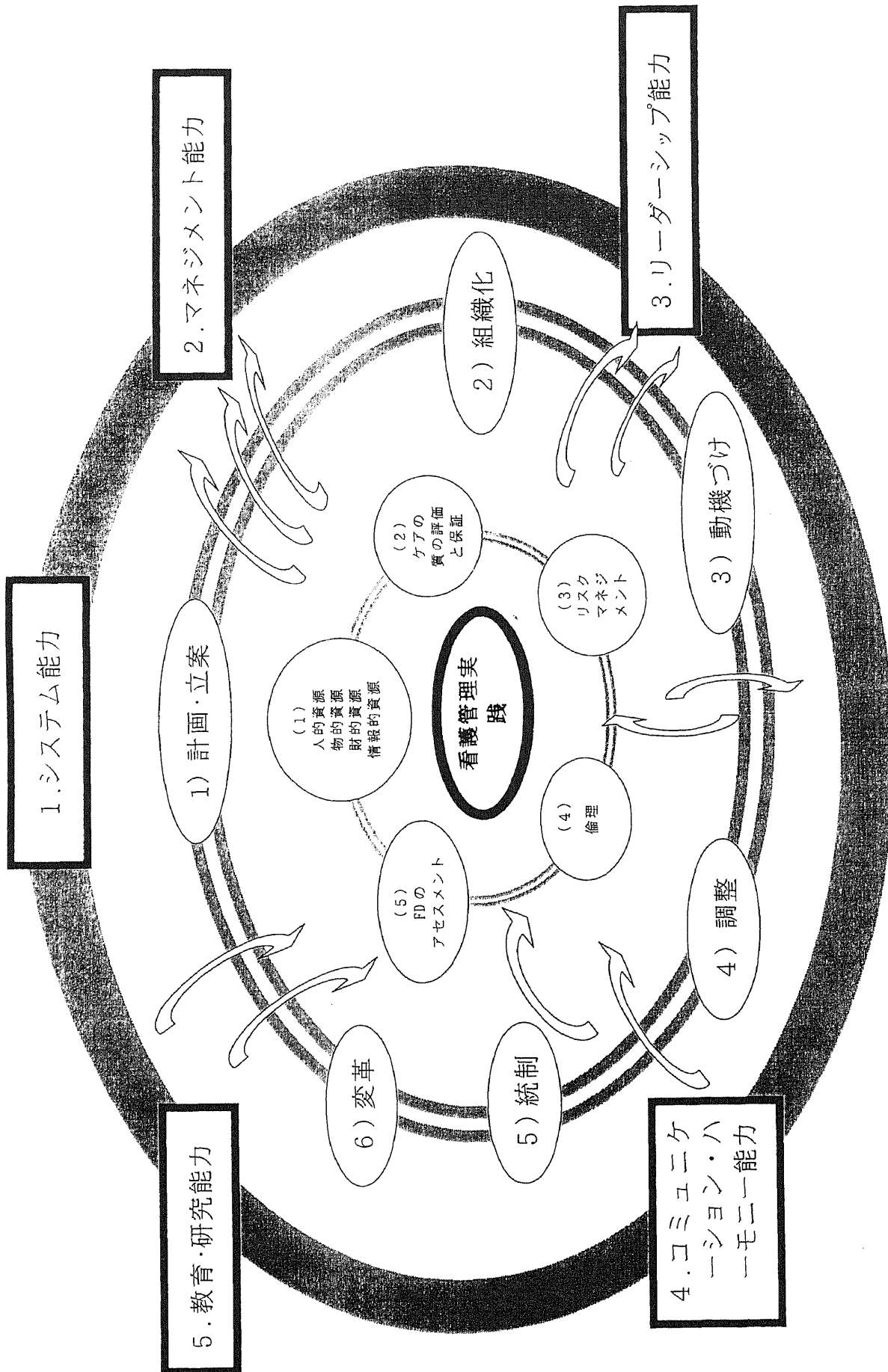


図 2 橋本の看護管理実践能力育成方法の Echo Network

おわりに

学生の看護学教育のなかでも看護実践能力の育成方法は課題である。それには。看護実践の基礎をしっかりと教え、学生に学ばせる方法を教師自身が能力として身に付けていること、現在の実践の場を把握し、学内で何を学ばせ、臨地で何を学ばせるかを精選していること。自己教育力を生涯教育の中で活かし続け、今回考案した橋本の看護実践能力育成方法と看護管理実践能力育成方法の Echo Network を活用していくことが重要である。

引用文献

- 1) アメリカ看護師協会[看護実践の範囲と基準]、INR,第29巻だい3号、126号 p95～98
日本看護協会出版会、2006

参考文献

- 1) 日本看護系大学協議会、看護学教育、日本看護協会出版会、2005
- 2) 大学基準協会:21世紀の看護学教育、2002
- 3) 平成14年度看護学教育ワークショップ「看護実践能力育成の充実に向けた実働」報告書、文部科学省、2002
- 4) 平成15年度看護学教育ワークショップ「学士課程における看護実践能力育成の到達目標」報告書、文部科学省、2003
- 5) 看護実践能力育成の充実に向けた大学卒業時の到達目標:、看護学教育の在り方に関する検討会報告、2004
- 6) 平成16年度看護実践能力検討会報告、日本看護系大学協議会、2005
- 7) 橋本和子編著:ヘルスとヒーリングの看護学、メディカ出版、2003
- 8) 協会ニュース、日本看護協会、2006.

(受理日 2006年6月28日)